

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103136
法人名	医療法人 創実会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	松山市六軒屋町3-19
自己評価作成日	平成25年 10月 25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・母体が医院であり、関連施設や泌尿器科もあり医療連携体制が充実している。 ・年1回の“はな祭り”や運営推進会議を通じて地域の方との関係が深まっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>週に1回、生花店からお花が届くようになっており、事業所の名前にもちなんで玄関や居間には生花がたくさん飾られていた。お花がお好きな利用者も多く、「きれいなね」等の言葉もよく聞かれるようだ。エレベーターの広さにも制限があるため、利用者によっては階段も併用しながら上り下りをされている。職員が掃除機をかけ始めると、利用者がモップがけをしてくださることもある。1日2回は、居間や廊下を塩素系消毒液を使用して拭き掃除をされており、年2回は清掃業者が普段できない部分の掃除を行うようになっている。 ご自宅から、大切にしているぬいぐるみを持ち込まれている利用者の方が、「このぬいぐるみと一緒に安心よ」と話してくださった。ベッドサイドにお好きな本を置いて読む方や、ご自宅から持って来られた電子ピアノを弾いて聞かせてくださることもある。絵を描くことがお好きな利用者は、自分の画集を持ち込まれていた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなの家

(ユニット名) 桜

記入者(管理者)

氏名 越智 和也

評価完了日

平成25年 10月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「ぬくもりは我家のように」という運営理念とともに「わのある生活」というユニットの介護理念を定め、地域の中で利用者を支えられるよう日々のケアに努めている。	
			(外部評価) 「ぬくもりは我が家のように」という事業所理念のもと、ユニットごとにリーダーが中心となって全職員で「もういいなんて思わない、笑顔が見える介護に努めます」「いつも寄り添い優しい声かけ」「わのある生活」等と目標を立て、理念の実践に向けて取り組まれている。ユニット目標は、居間の壁に掲示し、毎朝の申し送り時に復唱されており、年1回は、目標達成度を話し合い、ケアを振り返る機会を作っておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学生の定期的な訪問や毎年5月に開催している”はな祭り”を通じグループホームの存在を認知してもらえるよう交流している。	
			(外部評価) 管理者は、地域の「いきいきサロン」でグループホームの役割や、事業所の取り組み等についてお話された。毎年、恒例となっている法人全体で取り組む「はな祭り」は、駐車場で盛大に行われており、地域の方達の楽しみにもなっている。地域の中学生の福祉体験を受け入れたり、幼稚園児の訪問等、子ども達と交流する機会があり、利用者は子ども達からの手紙や折り紙等のプレゼントにもたいへん喜ばれている。これまで参加されていた公民館行事は、利用者の重度化に伴い、参加することが難しくなっているため、管理者は、利用者が地域の方達と交流できるよう、系列病院、系列施設で知り合いになった方にも、事業所に立ち寄ってもらえるよう声をかけておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 小学生の授業やクラブ活動を通して、認知症の方とふれあっていただき、職員も一緒に付き添って認知症についての理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームで過ごされている利用者の日々の様子を伝えるとともに、地域の中へ溶け込めるよう、様々なアイデアと意見を頂きサービスの向上に活かしている。11月には、町内の方と合同で、防災訓練を予定している。	
			(外部評価) 今年度から、管理者はユニットリーダーと相談しながら会議をすすめておられる。地域の方、ご家族や系列のシニアマンションの入居者等にも会議に参加していただいております。高齢者の健康についての講演や避難訓練、行事等と併せて会議を行うこともある。会議内容は「はな便り」とともに、ご家族へ送付されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者に利用者の生活支援について相談に乗っていただき、食中毒やインフルエンザ、ノロウイルス対策等の情報を得ている。また、市社協の研修へ積極的に参加し、協力関係を築けるようしている。	
			(外部評価) 大型スーパーにて、地域包括支援センター・市・市社協が協働して介護に関する相談会が行われた際には、地域の方やご家族に向けて情報提供して参加を呼びかけられた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会で全職員が学び、話し合い理解している。どうしても拘束が必要な方には、ご家族に状況を説明し同意書を頂いている。	
			(外部評価) 昼間は、玄関には施錠しておらず、ユニットの出入り口には鈴を付け、人の出入りが分かるようにされていた。調査訪問時には、利用者がひとりでエレベーターを利用している様子がみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で勉強会を行い、職員は虐待の範囲について周知しており、事業所内で虐待がないよう注意を払っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については職員で学んでおり、必要な方には活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約前に本人と家族に十分な説明をしており、納得を頂いた上で契約している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に関われる家族会や運営推進会議などに参加頂いており、そこでの意見や要望を取り入れられるよう努めている。面会時には、利用者の様子を伝えながら、意見や要望も聞き出せるよう努めている。 (外部評価) 管理者は、ご家族に「気になることを話してくださることは、事業所をよくしていくことにつながる」ということを伝えながら意見を聞いておられる。10月の家族会時には、利用者も交えて芋たきを楽しまれた。毎月、利用者個々の担当職員が、個々の様子を手紙にしてご家族に送付されている。事業所便り「はな便り」は、年3回発行されており、行事の様子の写真等を見て感想を話してくださるご家族もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 人員の配置、介護用品(吸引器、シャワーチェア)の購入についてなど、各階のリーダーは、月1回のミーティング時に出席者から意見を聞き、管理者へ伝えて、必要である物を検討し反映している。	
			(外部評価) ユニットごとにリーダーを配置して、利用者のさらなる把握に努められ、ミーティング等もユニット単位で行えるよう体制を作られた。各ユニットのレクリエーション担当の職員が、それぞれに計画して楽しみごとを企画して取り組まれており、時には、3ユニット合同でゲーム大会等を行うこともある。今夏に駐車場で、初めてそうめん流しを行い、職員は事前に竹の角度を調整する等、利用者が楽しめるよう企画された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表と職員が直接”給与や労働時間”などを話し合う機会は少ない。管理者とは日頃の勤務の合間やミーティングの時に話せる場はある。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修内容や日時をわかりやすくファイルしたり、職員の通る場所に掲示し、個々の興味や意欲に応じて参加できる機会を確保している。また、研修で学んだことは勉強会で発表し職員全体で知識や技術を共有できるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 有料老人ホームと相互訪問をしてサービスの質を向上できるよう取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前はできるだけ本人にも見学に来て頂きホームの雰囲気を感じてもらっている。事前の情報も活用し本人の要望に応えられるよう関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の想いを大切にし、小さなことでも要望に応えられるよう耳を傾け話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所の利便性を活かしながら、柔軟な対応と支援ができるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いが協働しながら支え合う関係づくりに努めている。また、利用者同士においても家庭的な環境で、自然に関われるよう間に入り、支援や配慮をしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に1回家族へ、利用者の日頃の様子を文章にして報告している。家族の想いに寄り添いながら本人の暮らしを一緒に支えられるよう協力している。また、誕生会に参加して頂き、一緒に過ごせる時間をつくっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) デイサービスを利用されていた方が馴染みの人と関係が保てるよう、散歩の合間などに顔を見せるようしている。家族の協力を得て、短い時間だが自宅へ帰れるように、個別の外出支援を行った。 (外部評価) 利用者が「家に帰りたい」と希望されたことを機に、職員が付き添いご自宅に戻り、過ごされたことがあった。その際、近所の友人が「帰ってたの」と声をかけてくれ、仲良しの方で集まろうという話になり、後日、楽しいひと時を持つことができたようなことがあった。次回の約束もされているようだ。系列のデイサービスに通う友人に会いにお連れしたり、娘さんと手紙のやり取りができるよう支援等されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事やレクリエーションの際は個々の能力や相性、タイミングと体調を考慮しコミュニケーションをとりながら行えるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても”はな祭り”の案内を送っており、実際に来て下さる家族もいる。また、年賀状を送り関係性を保てるようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前のアセスメントから、一人ひとりの今までの暮らしや生活スタイル(趣味や嗜好)をできるだけ把握し、日々の関わりや記録からは、具体的な思いや心の変化に注意しながら、その人の暮らしを支えられるよう努めている。意思疎通が困難な方は、家族の意見を取り入れ、本人本位になるよう、検討している。 (外部評価) 入居前には、管理者とユニットリーダーが利用者のご自宅を訪問して、これまでの暮らしぶりや健康状態について、ご本人ご家族から聞き取っておられる。得た情報は「介護要約書」にまとめられ、職員間で共有されている。日々の記録は、新たに2日間の様子が一目で分かるようにされており、利用者の思いを継続して知ることができるようになっていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から以前の暮らしの情報を得てバックグラウンドを把握し、支援に反映できるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃の生活リズムや活動、心身状態を個人記録に残し、現在何ができて何ができないのかを職員間の申し送りと検討のもと、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当の職員だけでなく職員全員で意見交換やモニタリングを行っており、本人と家族の想いを反映した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、ファイルされた個々の介護計画をみながら、日々の支援を記録されている。毎月、月末の一週間で利用者個々の担当職員が、介護計画のモニタリングを行うようになっており、ご家族等にお聞きしたケアや暮らしへの希望や要望を踏まえて、3ヶ月毎のミーティング時に話し合い、介護計画の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録に日々の様子を残して職員間で情報を共有し、介護計画の評価と見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族が宿泊するための受け入れ体制はある。(ベッドや食事など)また、病院への受診や訪問診療、訪問マッサージ、散髪などは状況に応じて対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>町内会や消防署、地域包括支援センターとの協働を得ており安心・安全な生活への支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	<p>母体医院の主治医の往診を週一回受けている。歯科、眼科については、訪問診療を受けられるよう支援している。(以前からのかかりつけ病院への受診は家族が付き添っている。)</p>
			(外部評価)	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	<p>日々の気づきや情報を職場内の管理者や看護職員に報告し、母体医院の医師の指示を受けている。医院の看護師とも連携が取れており気軽に相談できる。</p>
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	<p>母体医院だけでなく他の病院とも連携を密にし、情報交換や相談を行っている。利用者の入院時は状況に応じて必要な支援をしている。</p>
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>ターミナルケアの受け入れには希望に添えるよう医師、家族と話し合い十分に説明して、チームで支援している。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防の応急救護の研修に参加し対応方法を身につけている。AED設置時には講習を受け使用方法や手順を確認した。 夜間の利用者急変時の連絡手順なども徹底している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署員や地域の方々と合同で災害避難訓練を行い利用者個々の状態に応じた避難方法を検討した。いざという時に駆けつけてもらえるよう地域の協力者を増やしていきたい。 (外部評価) 避難訓練を年2回実施されている。11月の訓練時には、水消火器を使って利用者と一緒に消火活動を体験された。又、地域の方には、利用者を実際に避難口から外へ誘導することを手伝っていただいた。今年度、簡易担架を各ユニットに設置された。消防署の方からは、「利用者個々の状態に応じた避難」「備蓄はあるのでカセットコンロも災害時には必要」等のアドバイスがあった。先日、パンの焦げたにおいが事業所に漂ったことがあり、職員で災害時の対応について話し合う機会となったようだ。今後は、夜間想定避難訓練の実施を検討されていた。	今後さらに、職員がいざという時に慌てず対応できるよう、建物の条件や利用者の重度化等も踏まえ、いろいろな場面を想定し、避難訓練を繰り返して取り組まれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 運営理念にある一人ひとりの”人格を尊重し”どんな状況でもプライドとプライバシーを損ねないよう柔らかな言葉掛けと穏やかな態度を心掛けている。 (外部評価) トイレ介助時、職員は、利用者のひざにバスタオルをかけてプライバシーに配慮されている。事業所便りへの写真の掲載は、利用者やご家族に許可を得て行っておられる。職員は、研修で習った、ビーズを入れたバケツを使って足浴を支援されており、利用者に効果を説明してから行うようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定しやすい雰囲気づくりと選択できる場面の演出をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者がその日にどのように過ごしたいかなるべく希望に添えるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々がおしゃれを楽しめるよう支援している。メイクアップセミナーへ参加された方は、お化粧品やマニキュアをして気持ちの若返りを体験された。衣服については、過度の重ね着や季節感のズレなどがあるときには声かけし、第三者から見て不自然でないよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや食事の盛り付けなど一人ひとりのできる能力に応じて見極め関わって頂いている。また、好物や季節のメニューも考え提供している。誕生日には、外食したり特別メニューを用意し、お祝いしている。	
			(外部評価) 3ユニットとも同じ献立で、ユニット毎の食事担当職員が調理しておられる。事業所の畑では、ゴーヤ、高菜、シソ等を育てておられ、収穫して食事に使用することもある。さやえんどうの筋取り、もやしの根とり、お皿拭き等、利用者が座って行えることを支援されている。誕生日には、ご本人の希望をお聞きして、お好きな寿司や、刺身等を準備されたりケーキをデコレーションする等して、お祝いされている。利用者の希望で、回転寿司に出かけた時には、普段食べる量が少ない方もたくさん召し上がり驚かれたようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の主菜副菜の摂取量と、注意が必要な利用者は水分摂取量などを随時記録し、栄養や水分が確保できるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後は、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをお手伝いしている。(スポンジや歯間ブラシ、ジェル等個々に用具を工夫している。)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者個々の排泄パターンをチェック表に記録して把握に努めている。 食後など定期的にトイレ誘導することで失敗せず排泄できる方もいる。尿意、便意があいまいで常時オムツを使用している介護度の高い方も、トイレでの排泄を望む場合は2人介助で対応している。	
			(外部評価) 夜間、「自分でトイレに行きたいのに間に合わない」と言われる利用者には、居室にポータブルトイレを置いてみてはどうか、と提案して支援する場合もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 冷たい牛乳や手作りヨーグルト、バナナ等で十分な水分と食物繊維を提供し、適度な運動ができるよう毎朝体操している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 家族が用意したシャンプー類を個別に使用している方がおり、同性の職員の支援を望まれる方へは心情を察した配慮をしている。入浴前には血圧測定などのバイタルチェックをし、体調の確認をしている。	
			(外部評価) 2日に1回は、入浴できるよう支援されており、現在は、職員が二人で介助し、湯船で温まれるよう支援されている。入浴を嫌がる方も、湯船に入ると昔話をされる等、笑顔も見られるようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し整えつつも、本人の希望や状況をみながら居室やリビングで休息をとれるよう働きかけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員がすべての薬を管理している。誤薬や飲み忘れがないよう複数の職員が声を出し確認してから服用して頂いている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備や洗濯物たたみなど日常の中で役割をもって頂いており、日々の生きがいとなっている。また、スケッチや塗り絵などのレクリエーションや体操の指導、華道が得意な方は、それぞれが活躍できるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々のレベルにあわせて、近所への散歩やダイキに日用品を買いに行く時がある。帰宅願望がある方には家族と相談して、一時帰宅できるようご協力をいただき、支援している。	利用者の重度化に伴い、外出することに難しさもあるだろうが、利用者の希望等もうかがいながら、利用者個々に懐かしい場所や思い出の場所等も探り、利用者の体調等もみながら出かけてみるような機会を作ってみてはどうだろうか。
			(外部評価) 天気の良い日には、隣接の系列事業所から車を借り、道の駅等へドライブされている。手作り弁当を持って、桜を見に出かけたり、菊花展に出かけたりされている。利用者・職員で散歩がてら、近所のホームセンターへ花や小動物を見に出かけられたり、大型スーパーや回転寿司に出かける時には、ご家族も誘っておられる。ご家族と一緒にだと利用者は、うれしそう表情がみられるようだ。イチゴ狩りは利用者に人気があり、10年間続けて出かけておられるが、利用者の重度化等もあって、年々参加できる方が少なくなっているようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは基本的に職員が管理している。スーパーや移動パン屋、中山町の物産市での買い物の際は自分で支払ってもらうようしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話カードがあり希望があれば自由に電話出来るようになっている。利用者の会話内容がうまく伝わるよう間に入り支援することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 運営者の考えでリビングにはいつも季節の花が活けてある。壁絵なども気持ちが和んだり、季節を感じていただけるような飾りを工夫している。	
			(外部評価) 週に1回、生花店からお花が届くようになっており、事業所の名前にもちなんで玄関や居間には生花がたくさん飾られていた。お花がお好きな利用者も多く、「きれいね」等の言葉もよく聞かれるようだ。エレベーターの広さにも制限があるため、利用者によっては階段も併用しながら上り下りをされている。職員が掃除機をかけ始めると、利用者がモップがけをしてくださることもある。1日2回は、居間や廊下を塩素系消毒液を使用して拭き掃除をされており、年2回は清掃業者が普段できない部分の掃除を行うようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには日当たりの良い場所にソファがある。日向ぼっこしながら一人で過ごしたり、利用者同士と一緒に洗濯物をたたんだり、テレビでのど自慢を楽しんだりされている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族との思い出の写真やかわいいぬいぐるみを見えるところに飾って、思い出を回想できる居心地のよい空間になっている。好きな野球選手や俳優の写真を壁に貼っている方もいる。	
			(外部評価) ご自宅から、大切にしているぬいぐるみを持ち込まれている利用者の方が「このぬいぐるみと一緒にだと安心よ」と話してくださった。ベッドサイドにお好きな本を置いて読む方や、ご自宅から持って来られた電子ピアノを弾いて聞かせてくださることもある。絵を描くことがお好きな利用者は、自分の画集を持ち込まれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの床と手すりの設置で自立した歩行をされる方の安全をサポートしている。 自力駆動用の車椅子やポータブルトイレなど一人ひとりに合わせた環境整備に努めている。	